



智山専修学院生 来山される

九月二十九日、真言宗智山派の僧侶育成機関である、智山専修学院より、二十一名の修行僧と引率の本山僧侶二名の総勢二十三名が参籠された。一行は、関東三大本山巡りの一環として、成田山新勝寺・川崎大師平間寺を参拝の後、高尾山へ来山された。翌朝の大護摩供修行に参加し、修行満足と学業成就を祈念された。その後、精進料理を頂き、下山された。

修験道にふれる 16

修験課 桑澤 俊宏

《修験道十二道具》 並びに十六道具》

「走繩」

走繩とは、行者の無明を縛る不動明王の索(繩)を表し、新客・度衆・先達によって、持つ長さが変わります。これを左の腰に束ねてぶら下げ、入峰するのであります。以上の頭襟・班蓋・鈴懸・結袈裟・法螺・念珠・錫杖・笈・肩箱・金剛杖・引敷・脚半までを修験十二道具と呼び、これに松扇・柴打・草鞋・走繩の四種の道具を足した物が修験十六道具であります。この他に、修験十六道具には含まれない、「貝の緒」と云う道具があります。現在、多くの行者が身に付け、入峰している為、下記にて「貝の緒」も紹介したいと思います。

「貝の緒」

「貝の緒」とは文字の通り、貝(法螺)に纏わる物として、貝を結ぶ紐、貝の付属物として、認識されがちであります。実際は法螺貝とは関係が無く、束ねて結んだ二本の紐を行者の腰に巻く物であり、金胎一致・理智不二を表しています。色は基本的に赤色であり、諸説ありますが、行者と仏(山)とを結ぶ「へその緒」とされています。紐の長さは紐の太さや紐の結び方によって長さが変わりますが、およそ二メートルから四メートル程の長さになります。これは山中において、断崖絶壁に登る時や、濁流の川を渡る時など、自身を

守る命綱として用いられ、現代で云うザイルの役割を果たしています。

これは先輩行者から聞いた話ではありますが、山へ入峰する前日に大雨が降り、山中に有る沢が濁流となつて道を塞いでしまい、迂回する事もできず、この沢を渡ることになったそうです。数人の「貝の緒」を解き、それを一本の紐にし、片方を一人の行者に結びつけ命綱とし、反対の紐を数人で持ち、命綱を付けた行者が向うの岸へ渡り、両岸に渡つた紐を頼りにほかの行者も向う岸へ渡つたそうです。

現代離れしていると云う点もありますが、このように、修験者が持つ道具または恰好を見ると、意味のない物、または実用的でない物のように思われがちです。しかし一つ一つに教義的かつ実用的な意味・役割が備わっており、決して外す事の出来ない物なのです。

元旦御護摩札 申し込み御案内

平成二十八年元旦、午前零時より高尾山では、新春特別開帳大護摩供修行が厳修されます。御信徒の皆様には、元旦に参拝されて、大本堂で執り行われるこの修行に参加されることを、お勧めしております。

また、御信徒様各位の御都合により高尾山へ御来山頂けない方の為に、元旦御護摩札を郵送でのお取り扱いをいたしております。

元旦御護摩札のお申込みを御希望される方は、高尾山信徒課まで御連絡頂きますと、申込用紙をお送りいたします。同封されている返信用封筒に、元旦御護摩申込用紙を同封頂き、十二月十日までに必着するようにご投函頂きますよう、お願い申し上げます。

尚、元旦御護摩札の発送は、一月三日以降を予定しております。

■申し込み締め切り
十二月十日必着

■お問い合わせ先
電話 〇四二一六六一一一一五
FAX 〇四二一六六四一一一九
高尾山薬王院・元旦御護摩係まで

三社寺合同 日本復興祈願祭執行

十月二十六日、高尾山薬王院と北口本宮富士浅間神社、大山阿夫利神社の三社寺は、高尾山にて東日本大震災や日本各地で発生した様々な災害の、日本復興祈願法要を執り行った。当山の菅谷執事長御導師のもと、参列者一同は被災地の早期復興と、国土安穩を願い、祈りを捧げました。



日本各地の災害地復興の祈りが捧げられた

フィンギニアスケート 本郷理華選手 優勝おめでとうございます

十月八日〜十一日に、北欧フィンランドの首都ヘルシンキ近くの都市エスポーで行われた、フィンギニアスケート国際大会のフィンランディア杯において、本郷理華選手が優勝されました。本郷選手は昨年も同大会に出場され、三位という結果でしたが、今大会においては、SP(ショートプログラム)とFS(フリースタイル)共に一位を獲得し、見事に今シーズンの初戦を勝利で飾られました。

最後になりますが、お祝いの言葉を贈ると共に、今後のさらなるご活躍をお祈りいたします。



昨年より更なる成長を見せた本郷選手(中央)